令和7年 第2回 大仙市議会定例会

市 政 報 告

令和7年5月29日

大仙市長 老 松 博 行

令和7年第2回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、花火産業構想についてであります。

「花火産業推進プロジェクト」に掲げた4つの事業軸の一つである「国際的に認知され、海外からも訪れやすい環境の実現」に向けた取組の一環として、この6月に、大阪市夢洲を会場に開催されている「大阪・関西万博」のイベントである「JAPAN FIREWORKS EXPO」において、大曲の花火協同組合が「大曲の花火」を打ち上げることとなっております。

今般の打ち上げは、日本を代表する花火大会の一つとして、主催者からのオファーを受け、実現したもので、「大曲の花火」の高い芸術性と、優れた技術力を国内外に広く発信し、グローバルな花火産業基盤の確立に向けた足がかりにするとともに、「花火のまち」としての認知を入口に、インバウンドを含めた本市への誘客の拡大につなげてまいりたいと考えております。

4月26日に開催された「大曲の花火～春の章～」につきましては、全国から選抜された新進気鋭の若手花火師18名が、創造性や芸術性を競ったほか、カナダで最も長い歴史を持ち、最大規模の花火会社であります「ハンズ・ファイヤーワークス社」をお招きし、同社の演出による「世界の花火と日本の花火のコラボレーション花火」が打ち上げられて

おります。当日は、雨が降る寒空のもとでありましたが、花火シーズンの幕開けにふさわしい多彩な花火が春の夜空を彩り、訪れた多くの観客の皆様を魅了しております。

これにあわせて「丸子川ナイトマーケット」が行われたほか、「花火伝統文化継承資料館 はなび・アム」では、中学生ボランティアによる館内案内やワークショップ、花火にまつわるスポットを巡る「健幸はなびウオーキング in 春の章」、FMはなび「花火の星」の公開収録など、花火伝統文化の継承と地域経済への波及拡大に向け、創意に富んだ多様な催しが行われております。

全国花火競技大会「大曲の花火」観覧席の市民先行販売につきましては、5月7日から19日までの期間で申し込みを受け付けており、販売予定数を上回る申し込みをいただいております。会場での観覧機会の創出や「花火ふるさと教育事業」を通じ、本市を代表する地域資源として、市民の皆様とその価値を共有してまいりたいと考えております。

次に、大仙市誕生20周年記念事業についてであります。

「大仙市誕生20周年記念式典」につきましては、秋田県知事、並びに地元選出の国会議員をはじめ、約600名の皆様のご臨席のもと、3月22日に大曲市民会館を会場に挙行しております。

第1部では、今年のパリ・オリンピック女子マラソンで6位入賞の

快挙を果たされ、全国に元気と感動をもたらした鈴木 優花さんに「大仙市民賞」を授与するとともに、地方自治や教育、商工業など各分野において、本市の振興発展にご尽力された17個人1団体の皆様を功績者として表彰しております。また、各分野でご活躍され、その振興に努められた10個人4団体の皆様に感謝状を贈呈しております。

第2部では、岩手県知事や総務大臣などを歴任された増田 寛也氏を講師にお迎えし、記念講演を開催しております。講演では、「人口減少社会を生き抜くために」と題して、若者や女性に選ばれるまちづくりを目指し、地域課題に対する意識を地域全体で共有することや、住民一人ひとりが地域への誇りをもつことの重要性をお話しいただいたほか、「大仙市が地方での生活モデルを確立し、日本を変える先頭に立ってほしい」との激励をいただいております。20周年の節目を機に掲げた「共創のまちづくり」の理念のもと、未来に向けて持続的に発展する新たな時代にふさわしい大仙市の創造に向け、ご臨席の皆様とともに、決意を新たにす機会になったものと考えております。

記念事業の柱の一つである「アフターイベント」につきましては、5月26日、中仙市民会館ドンパルを会場に、市民が主役のまちづくり講座「大仙アカデミー」を開催しており、約350人の皆様にご来場いただいております。当日は、^{しょうとくしゅう}聖徳宗の第7代管長で法隆寺第130世住職の^{ふるや}古谷 ^{しょうかく}正覚氏を講師にお迎えし、「法隆寺と聖徳太子」と題して

貴重なご講演をいただいたほか、法隆寺と本市とのつながりや鈴木空如の画業を振り返る座談会も開催しております。また、この催しにあわせ、5月24日から6月8日にかけて、太田文化プラザを会場に「鈴木空如筆 法隆寺金堂壁画展」を開催しており、クラウドファンディングを通じて全国各地からご支援をいただき、表装の修復を終えた4点を含む「法隆寺金堂壁画模写」の1作目8点を初展示するなど、連日、多くの皆様にご来場をいただいております。

次に、ツキノワグマの出没についてであります。

4月以降、市内各地でツキノワグマの目撃情報が相次いで寄せられており、5月27日現在の目撃件数は、昨年度の約2倍となる59件に上り、市街地への出没も複数件確認されております。秋田県全体においても同様の状況にあり、県では、5月8日から31日までを期間とする、今年初の「ツキノワグマ出沒警報」を発令しております。

市では、公式SNSやホームページ、FMはなびを通じた出沒情報の迅速な発信や注意喚起に加え、猟友会や警察をはじめとした関係機関と連携しながら、対応にあたっているところでありますが、県内ではすでに人身被害が発生しているほか、今後さらに活動が活発化する季節となることから、これまで以上に警戒が必要となってまいります。

市といたしましては、引き続き関係機関と緊密に連携を図りながら、

被害の未然防止に最大限努めてまいりますので、市民の皆様におかれましても、「いつでも・どこでも・誰でも」クマに遭遇するリスクがあることを念頭に、屋外で活動する際は複数人で行動することや、食品残さなどを屋外に放置せず、建物等のこまめな施錠を行うなど、自身を守る対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、総務部関係についてであります。

水防訓練につきましては、5月25日、国土交通省東北地方整備局、秋田県並びに雄物川流域8市町村の共催により「令和7年度雄物川総合水防演習」を開催しております。本演習は、激甚化・頻発化する自然災害に対し、流域関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」の実効性を高める重要な取組の一環として、国土交通省が定める「水防月間」にあわせて開催されている東北最大の水防演習であります。

本市での開催は、平成16年の旧大曲市以来21年ぶりであり、「大曲の花火」公園を会場に関係者約1,300人が参加し、雄物川の水位上昇を想定したタイムラインに沿って、実践さながらの緊迫感のある訓練が行われております。また、ご来場の皆様には、同時開催された防災展や物産展を通じ、楽しみながら防災知識を学ぶ有意義な機会となっており、関係機関や団体相互の連携や役割の確認、地域住民の防災

意識向上といった所期の目的を達成できたものと捉えております。

今回の演習を機に、国や県、関係市町村等との連携を強化しながら、流域治水の取組を一層推進するとともに、引き続き、河川改修や内水排水対策などの着実な推進と、共助を基盤とした地域の災害対応力の強化を進め、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

次に、企画部関係についてであります。

「南檜岡コミュニティセンター」につきましては、地域コミュニティや防災の新たな拠点として、5月1日に供用を開始しております。本施設は、研修室やプレイルームをはじめ、地域の皆様の交流と健康づくりに活用できるスペースのほか、備蓄倉庫や非常用発電設備を備えており、多くの皆様から親しまれ、活用される地域の拠点となることを期待しております。また、本施設の整備にあたっては、利用状況や人口動向等を踏まえたうえで、地域における類似施設の統廃合と重複する集会機能の集約により、必要とされる機能の充実・強化を図ったところであり、「大仙市公共施設等総合管理計画」のモデルケースとして、人口減少社会にあわせた公共施設の適正配置に向け、他の施設に展開してまいりたいと考えております。

地域おこし協力隊につきましては、4月1日付けで、新たに1名の隊員が着任しております。南外支所地域活性化推進室に所属し、

「NPO法人南外さいかい市」の活性化や持続化に向けたサポート、地域行事の企画・運営のほか、市の魅力を広く発信する活動を行っていただくこととしており、地域課題の解決や地域力の向上に向けて大いに活躍していただくことを期待しております。

次に、市民部関係についてであります。

プラスチック資源の分別収集につきましては、家庭ごみの計画収集に位置付け、この4月に開始したところではありますが、モニタリングの結果、多くの市民の皆様に関心を持っていただき、ご協力いただいていることが明らかになったことから、市民の皆様の取組をさらに後押しするとともに、より多くの皆様から分別にご協力いただき、循環型社会への移行を加速するため、7月から月1回の収集を2回に見直すこととしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

健幸まちづくりプロジェクトにつきましては、健幸ポイントの獲得上位者などに賞品を贈呈する従来のインセンティブに加え、保有ポイントに応じてクオカードペイなどと交換できるポイント交換プログラムを導入しております。ポイント利用の選択肢が広がることで、楽しみながら健康活動に取り組むことができる環境づくりが進展し、プロジェクト

への参加意欲や健康活動を継続する動機付けにつながるものと期待しており、健幸の輪がより一層大きく広がるよう、市民の皆様に広く参加を呼びかけるとともに、企業の皆様が実践する健康づくりの横展開や、データの利活用にも取り組みながら、「日本一健幸なまち」を目指してプロジェクトを推進してまいります。

次に、こども未来部関係についてであります。

「こどもまんなか社会」の実現に向けた羅針盤となる「大仙市こども計画」につきましては、基本理念に掲げた「全てのこどもがこころ豊かで健やかに育つとともに、子育て当事者が安心して子育てを楽しむことができるまち」の実現に向け、各種取組をスタートしております。

その一環として、新たに生後1か月児健診を助成対象に加え、出産後から切れ目のない乳幼児健康診査体制の充実を図っているほか、屋内遊び場施設整備事業につきましては、設計・施工から運営・維持管理まで一括して発注する「DBO方式」を導入することとし、発注に向けた準備を進めているところであります。

今後も、様々な機会を通じてこどもや若者、子育て世代の声を伺い、その声や目線を各種施策に取り入れながら、「地域全体でこどもを育み、こどもの成長に喜びを感じながら、安心して子育てができる環境づくり」を進めてまいります。

次に、農林部関係についてであります。

担い手の確保・育成につきましては、4月15日、クボタグループのご協力のもと、太田地域の東部新規就農者研修施設のほ場において、「農業機械・農作業安全研修会」を開催しており、農業研修生や農業近代化ゼミナール受講者など27人が参加しております。

スマート農業の推進につきましては、秋田県及び秋田県立大学との連携による「秋田版スマート農業モデル創出事業」に基づき、農作業の省力化や低コスト化の実現に向けた先進技術の実証事業を進めており、5月5日には、仙北地域高梨地区において、農業用ドローンを活用した水稻直播栽培や、自動操舵機能付トラクターによる乾田直播栽培の実演会を開催しております。

農業生産基盤の整備につきましては、県営事業を含めた全28地区のほ場整備事業とあわせ、RTK基地局を活用した省力化・低コスト化を推進するほか、秋田県仙北平野土地改良区と連携しながら、農業分野以外における通信環境の利活用方策についても検討を進めてまいります。

市営水産ふ化場改築事業につきましては、昨年度策定した基本計画をもとに、基本設計や各種調査の発注準備を進めているところであり、歴史ある鮭文化の継承と、持続可能な水産資源の確保に向けて着実に進めてまいります。

次に、経済産業部関係についてであります。

起業への支援につきましては、これまで、産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画のもと、商工団体と連携を図りながら、経営相談や起業に係る初期経費等への助成を行ってきたところであり、平成29年度の制度創設から昨年度までの累計助成件数は102件で、その約8割が45歳以下の若者となっております。また、令和4年度に開設した「だいせんLabo」では、昨年度までに167件の相談を受け付けており、約半数が起業や経営・事業拡大に関する内容となっております。

こうした利用実態を踏まえ、起業に向けたサポート体制の強化と支援の充実を図るため、今年度、経済産業部内に起業支援と若者チャレンジの相談窓口を統合した新たなセクションを設置したところであり、相談者に寄り添ったきめ細やかなサポートを展開しながら起業を後押しし、地域経済の振興・発展につなげてまいりたいと考えております。

雇用・就労対策につきましては、求人票の早期提出要請をはじめとした地元経済団体に対する働きかけに加え、職場定着セミナーや交流の場の創出などを通じ、若者の地元定着を促進してきたところであり、ハローワーク大曲管内の本年3月に卒業した高校生の就職状況は、全就職者234人のうち、県内就職者は176人で全体の75.2%となっており、依然として高い水準で推移しております。今後も関係団体等と連携を図りながら、若者の地元定着を後押ししてまいります。

企業誘致につきましては、3月10日に締結した立地協定のもと、システム開発やプロジェクトマネージャーの育成等を手がける「株式会社ブルーバディー」が、「シェアードオフィス COZY」内にサテライトオフィスを開設しており、市民2人を新たに雇用し、操業しております。今後も、人手不足等を背景に高まる地方都市への立地需要を的確に捉え、本市の充実した支援制度や雇用の優位性などを広くPRしながら、企業誘致に努めてまいります。

次に、観光文化スポーツ部関係についてであります。

インバウンドの推進につきましては、この4月の訪日外国人観光客が過去最高を更新するなど、大幅な増加傾向が続いていることに加え、秋田県と台湾を結ぶチャーター便の好調な利用状況などを背景に、本市を訪れる外国人旅行者も増加傾向にあることから、明確なターゲティングのもと、本市へのさらなる誘客に向けたプロモーションを展開するため、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

中里温泉につきましては、この3月に改築工事が完了し、4月30日にリニューアルオープンしております。装いを新たにした中里温泉は、広々とした浴槽や露天風呂のほか、県内では数少ないフィンランド式の「オートロウリュサウナ」や、東北最深級の水風呂などの設備を備えたサウナファン待望の温泉施設となっており、オープン初日には396人

の皆様にご来館をいただいております。5月26日までの累計入館者数は10,291人と、オープンから1か月足らずで、旧施設の年間利用者の2割に達する勢いで利用をいただいております、東部観光エリアの新たな拠点として、何度でも足を運んでいただける魅力ある温泉施設となるよう、運営にあたってまいります。

「だいせん田園ハーフマラソン」につきましては、5月11日、県内外から700人のランナーにエントリーいただき、フリーアナウンサーの相場 詩織さんと、本市出身で「アランマーレ秋田」のキャプテンである高橋 悠佳選手をゲストにお迎えし、大台スキー場を主会場に開催しております。当日はあいにくの天候となりましたが、参加したランナーの皆様は、雄大な奥羽山脈と真木真昼県立自然公園を臨む抜群のロケーションを颯爽と駆け抜けております。

「第31回世界少年野球大会秋田大会」につきましては、5月25日、中仙市民会館ドンパルを会場に記念トークショーを開催しており、野球ファンをはじめ、多くの皆様にご来場いただいております。当日は、世界少年野球推進財団評議員の中畑 清氏と、日本ハムファイターズで活躍された斎藤 佑樹氏をお迎えし、野球人生を振り返りながら、軽妙なトークで会場を盛り上げていただいております、7月の大会開催に向け、気運を大いに高める機会になったものと思っております。

次に、建設部関係についてであります。

「雄物川改修整備促進期成同盟会」、「国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会」並びに「高規格道路本荘大曲道路整備促進期成同盟会」につきましては、5月1日に通常総会を開催し、本年度の事業計画等が承認されております。引き続き、構成団体等と連携を図りながら、重要な社会基盤である道路や河川の機能向上が早期に図られるよう関係機関に対する要望活動を積極的に行ってまいります。

次に、教育委員会事務局関係についてであります。

学校給食事業につきましては、食材費をはじめとする物価の高騰を受け、昨年度、給食費の価格改定を行ったところでありますが、依然として物価高に歯止めがかからない状況にあることから、今年度の給食費から1食あたり30円を値上げする改定をさせていただいております。

小学校の値上げ分は、昨年度に引き続き市が負担するとともに、教育費の負担が大きい中学校については、国や県に先駆けて無償化したところであります。今後も、大仙市産をはじめとする地場産食材を積極的に活用しながら、栄養基準を満たす安全・安心で美味しい給食を児童生徒に提供してまいります。

最後に、令和6年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算概況に

ついて申し上げます。

一般会計につきましては、国の定額減税の影響により、市税収入の減額を見込んでいたものの、想定に反して税収の伸びがあったほか、地方交付税の原資となる国税収入の上振れに加え、物価高騰等に伴う行政運営経費の増加が交付税の算定に反映されたことなどにより、当初予算を上回る配分があったことなどから、昨年度に続き黒字決算となる見込みであります。

また、国民健康保険事業特別会計をはじめとする特別会計につきましては、全会計において実質収支がゼロ、または黒字となる見込みであるほか、企業会計の収益的収支における純利益は、市立大曲病院事業会計で約4,000万円、水道事業会計で約9,000万円、簡易水道事業会計で約1億7,000万円、並びに下水道事業会計で約5億9,000万円となる見込みであります。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、市政の報告とさせていただきます。

別添

令和7年第2回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

令和7年5月29日

大 仙 市

目 次

【健康福祉部】

1 予防接種について	1
------------------	---

【農林部】

2 大仙市産日本酒ブランドの確立に向けた取組について	1
3 園芸メガ団地について	1
4 鮭資源確保活用事業について	1

【観光文化スポーツ部】

5 春の観光イベントについて	2
6 友好都市との交流について	2
7 国際交流について	2

【建設部】

8 国直轄河川関係事業について	2
9 国道関係事業について	3
10 県道事業について	3

【上下水道局】

11 上水道事業について	3
12 簡易水道事業について	3
13 下水道事業について	3

【健康福祉部】

1 予防接種について

带状疱疹予防接種につきましては、65歳以上の方などに対する带状疱疹ワクチンの予防接種が、この4月から予防接種法に基づく定期接種に位置付けられたことから、対象者には接種費用の一部を助成しております。また、定期予防接種以外の50歳以上で任意の予防接種を受けられる方への一部助成はこれまでと同様に行っております。

【農林部】

2 大仙市産日本酒ブランドの確立に向けた取組について

市内酒米生産者と5つの酒蔵の協力のもと、秋田大学の学生が酒米づくりから仕込み、販売までを手掛けた日本酒「宵の星々」につきましては、SNS等を通じ、プロジェクトに参加した学生の目線で一連の活動を発信するなど、情報発信に力を入れており、こうした取組も一助となり、販売状況は好調であると伺っております。

本年も、4月25日の種まき作業を皮切りに活動がスタートしており、引き続き産学官が連携した、本市を代表する大仙ブランドの一つとして、定着を図ってまいります。

3 園芸メガ団地について

中仙地域の園芸メガ団地につきましては、6月中旬の初出荷に向け、4月28日から5月7日にかけてトマトの定植作業が行われたほか、アスパラやネギ、オクラなどの複数品目による収益の向上を目指した取組が進められております。

4 鮭資源確保活用事業について

鮭資源確保活用事業につきましては、「大仙市誕生20周年・鮭ふ化放流事業130年記念事業」として、3月16日、市内小学生による鮭の稚魚記念放流式が花館地区の玉川沿岸で行われたほか、芸能人をお招きし、記念講演を開催しております。これにあわせ、市内の保育園や小学校などで鮭稚魚の展示も行っており、内陸の地にありながら、川と海をつなぎ、豊かな河川環境を今に受け継いできた鮭ふ化放流事業の歴史と意義を再確認する、貴重な機会になっております。

また、4月14日には、花館、四ツ屋、内小友及び神岡小学校の児童122名が参加し、玉川橋下流右岸において、約5万尾の鮭の

稚魚を放流しており、本事業による稚魚の放流総尾数は160万尾となっております。

今後も、雄物川鮭増殖漁業生産組合をはじめとした関係機関や団体、地域の皆様と連携しながら、地域の伝統的な文化である鮭漁の継承と鮭資源の安定的な確保に取り組んでまいります。

【観光文化スポーツ部】

5 春の観光イベントについて

桜の開花にあわせ、各地域で特色ある観桜会や桜まつり、ライトアップなどのイベントが開催されております。本年は、例年よりやや遅い開花となりましたが、本市を訪れた多くの皆様から市内に咲き誇る桜をお楽しみいただいております。

6 友好都市との交流について

友好都市との交流につきましては、5月4日と5日の両日、古谷議長や物産中仙株式会社の関係者とともに座間市大風まつりに参加し、「大曲の花火」昼花火の打ち上げや市特産品の販売を通じ、本市を積極的にPRしております。

7 国際交流について

国際交流につきましては、4月11日から4日間の日程で、古谷議長、今野副市長、刈和野大綱引保存会の会員の皆様など、総勢10名が韓国唐津市を訪問し、機池市綱引き祭りに参加しており、「綱引き」という共通の伝統文化を通じて交流を深めております。

また、5月16日から3日間の日程で、台湾新北市と台北市を会場に開催された「ワールドマスターズゲームズ2025」の開会式に出席し、新北市との交流を深めております。

【建設部】

8 国直轄河川関係事業について

河川整備事業費として、引き続き雄物川の河道掘削を実施するほか、河川災害復旧事業として雄物川の護岸整備を実施し、令和7年度中に完成する予定と伺っております。

9 国道関係事業について

昨年度に引き続き、国道46号の協和地域稲沢地区において、歩道整備事業を実施すると伺っております。

10 県道事業について

昨年度に引き続き、秋田県無電柱化推進計画事業として、県道大曲大森羽後線の電線共同溝設置に伴う水道管移設補償、交通安全対策として、県道角館六郷線と県道神岡南外東由利線において通学路を確保するため、歩道整備事業を実施する予定と伺っております。

【上下水道局】

11 上水道事業について

上水道区域に含まれているものの、配水管が未整備となっている内小友東部地区への配水管布設工事につきましては、本年度から工事を進めてまいります。

また、水道水の安定的な供給を図るため、老朽化した西根水管橋の更新事業を引き続き実施するほか、大曲丸の内町において県事業の電線共同溝整備に伴う配水管移設工事などを実施してまいります。

12 簡易水道事業について

西仙北地域刈和野地区の配水管更新事業につきましては、不測の広域断水リスクの低減を図るため、令和5年度より計画的に進めてきた仕切弁設置工事を年内に完了させるとともに、今年度から配水管改良工事を進めてまいります。

また、同地域の心像・小杉山地区簡易水道事業につきましては、水道水の安定供給を図るため、土川杉沢地区において配水管改良工事を実施してまいります。

13 下水道事業について

農業集落排水施設統合事業につきましては、中仙地域の田ノ尻地区農業集落排水施設を秋田湾・雄物川流域下水道へ接続するため、管路工事を進めるほか、引き続き、協和地域の水沢地区と稲沢地区において、管路接続工事及びマンホールポンプ施設の機械・電気設備等改修工事を進めてまいります。